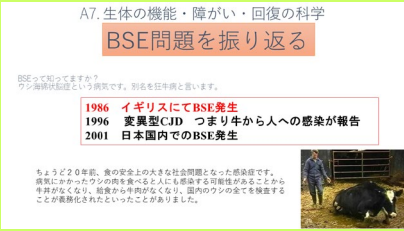


## 教養モジュール科目案内


カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	21-A7 生体の機能・障がい・回復の科学		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	西田 教行	責任部局	医学部医学科
趣 旨	<p>コロナウイルスパンデミックの中、我々は様々な情報を受け取りながら、判断を迫られる経験をしています。例えばコロナ対策としてマスクを付けるか、付けないか、ワクチンを打つか、打たないか、判断を迫られます。医学的な内容だから難しいと思いがちで、どこか偉い専門家の言うことを鵜呑みにしてしまったり、たまたま目にしたネットの情報を正しいと思い込んだり、我々は容易に信じたいことを信じてしまいがちです。このモジュールでは感染症に関する2つのことをテーマにどのように問題を捉え、情報を取捨選択し、批判的思考をすべきか学びます。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>感染症は我々の生活・人生に大きな影響を与えます。無知であることはできません。ウイルスのことを学ぶことは消して難しいことはありません。ただ医学専門用語が難しく思わせている面があります。そういう困難さは問題意識を持って自ら学ぶことで容易に解決できます。また授業を通して議論することで何がわからないのかがわかるようになります。この授業では疑問を出発点に据え、様々な情報を入手し、得られた情報を元に議論を重ねることでわかりにくいことは何かを考え、なぜわかりにくいのかを見つけます。そのためには安易に信じることをやめ、徹底的に疑うことをトレーニングします。</p>	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
BSE問題を振り返る	西田 教行 中垣 岳大	食品の安全性をめぐる諸問題は今も存在する。その中で感染症の関わる問題としてBSEを取り上げ、過去の過ちから何を学ぶかを議論する。	BSE, プリオン, 食の安全
子宮頸癌ワクチンについて考える	西田 教行 金子 美穂	子宮頸癌ワクチンを打つべきか否かを議論するために、科学的データをどう読み、理解すべきなのかなどにチャレンジする。	HPV, ワクチン, 子宮頸癌

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えをやり取りする力	⑩ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点	
											A	B
											取り扱う	取り扱う
BSE問題を振り返る	○	◎	◎	○	◎		○	○	○	○	○	◎
子宮頸癌ワクチンについて考える	○	◎	◎	○	◎		○	○	○	◎	○	◎
◎ (特に重視) の数	0	2	2	0	2	0	0	0	0	1	0	2
○ (重視) の数	2	0	0	2	0	0	2	2	2	1	2	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

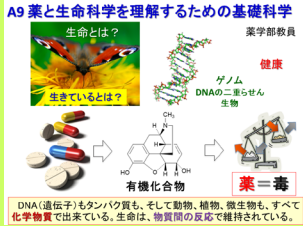
カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	21-A8 ハンディキャップの理解		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	井口 茂	責任部局	医学部保健学科
趣 旨	障がいとは単に医学的な問題だけでなく、心身・活動・参加に関わる生活上の問題として捉える必要がある。そのため、障がいを捉えていく上で、障がいがあってもその人がその人らしく生きられ、社会全体が共に生きるという視点が重要である。本科目のテーマである「ハンディキャップの理解」では、「ソーシャル・インクルージョン」、「人権」、「リハビリテーション」の理念を理解し、子どもから高齢者までのすべてのライフサイクルが対象となる。本テーマでは、「老いと健康」と「障がい体験と支援」の2つの科目において、高齢者と障がい者の社会背景と基本的な生活課題を教授し、その課題解決について議論する。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識は特に問いませんが、障がい者・高齢者に関わる生活問題に関心がある方、他学部の学生と協働して学習を進めていくことに関心がある方を歓迎します。本テーマの2つの科目では教室内だけの学習活動にとどまらずフィールドワークも取り入れますので、受け身の学習態度ではなく積極的な学習態度で臨んでほしいと思います。	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
老いと健康	井口 茂 横尾 誠一 森内 剛史	加齢に伴って起こる心身の変化と健康・生活問題について理解する。また、フィールドワークを通して、高齢者の意識について考察していく。	高齢者の心身の健康、高齢者の生活、介護予防
障がい体験と支援	東 登志夫 平瀬 達哉 中尾 理恵子	各種障がいの疑似体験を通して障害を理解し、支援の必要性について考察する。	障害、高齢者、支援、斜面

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的検討	⑥ 倫理観	⑦ 多様性の理解	⑧ 協働性	⑨ 考えるやり取りする力	⑩ 関心 国際・地域社会への	※授業編成の視点	
											A 取り扱う	B 取り扱う
老いと健康	○		○		◎	○		◎	○	◎	○	○
障害体験と支援	○	○				○	◎	◎			○	◎
◎（特に重視）の数	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	0	1
○（重視）の数	2	1	1	0	0	2	0	0	1	0	2	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

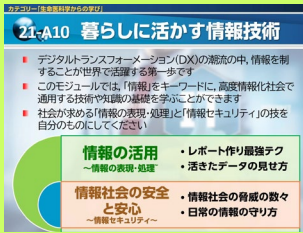
カテゴリー	生命医学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	21-A9 薬と生命科学を理解するための基礎科学		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・水産学部		
テーマ責任者	田中 正一	責任部局	薬学部
趣旨	<p>“生命とは何ぞや”という問いに、明確な答えは無いかもしれませんが。しかし命ある地球上の多様な生物は、化学物質で構成され、すべての細胞や組織では、複雑な化学反応系によって高次の生命活動が営まれ、制御されていることは明確です。薬は、これらの生命活動に直接関与することによって生体内の化学構造や機能の異常を改善するために用いられて来ました。また、一方で、期待されない障害を与えたことも事実であり、それもまた薬の本質ともいえます。これまでの人類の病気との戦いの中で発見された薬の歴史も振り返りながら、生命現象と薬のかかわりを学習することにより、生命とは何かを科学的に思考したいと思います。</p>		
学生の皆さんのメッセージ	<p>人類が、薬を見出し、使用してきた歴史は古く、薬と共に歩んできた長い道のりは文化史の一部とも言えます。本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているわけではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのか、どのようにして開発されてきたのか、を正しく理解するためには、化学物質である薬、生体のしくみ、病気の原因などの基本的な知識が必要です。モジュール I では、これらの基礎知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。また、その知識をもとに、薬を科学的かつ歴史的側面からも見つけ、演習、簡単な実験も交え学習します。薬というキーワードで、生命現象を共に考察してみませんか。</p>	説明動画	

科目名	担当者名	概要	キーワード
ビギナーのための有機化学	田中 正一 上田 篤志 真木 俊英	有機化合物は、ヒトの生活に欠かせない衣類、食品、医薬品等様々なものの原料となる。さらに、生命現象も有機化学反応が織りなすものといえる。この講義では、有機化学の基礎を学が事で、生物の営みや自然現象を有機化学の視点から正しく理解し、説明できる力をつけることをねらいとする。	元素・分子・有機化合物・炭化水素・官能基・触媒・ゴム
ビギナーのための生物学	岩田 修永 城谷 圭朗 武田 弘資 谷村 進	細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムを学ぶ。さらに、遺伝子組換え技術をもとに開発された最先端医薬品（バイオ医薬品を含む）を例示し、その応用について科学的に考察する機会を持つ。与えられた課題に対して小グループで議論し、資料を作成して発表する。	遺伝子・酵素・細胞の機能、発がんのメカニズム、創薬研究、遺伝子組換え、遺伝子治療

教養モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点		
	知識・技能	主体性	リテラシー	情報	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	理解	多様性の	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A
ビギナーのための有機化学	◎	○		◎	○			○	○	○	○		
ビギナーのための生物学	○	◎	○	◎	◎	○			◎	○			○
◎（特に重視）の数	1	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
○（重視）の数	1	1	1	0	1	1	0	1	1	2	1	1	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

## 教養モジュール科目案内

カテゴリー	生命医科学からの学び	モジュール科目区分	教養モジュール I
テーマ名	21-A10 暮らしに活かす情報技術		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	上繁 義史	責任部局	ICT 基盤センター
趣 旨	インターネットを世界経済・社会生活の土台として、デジタルトランスフォーメーション（DX）という変革が進行しています。インターネットを流通する情報を収集分析し活用することで、新たな付加価値を創造し続けることができるのです。この時代、私たちは情報や情報技術を正しく理解し、向き合い、活用していかなければなりません。本モジュールでは、情報の視点から、世界に適應する情報の基礎力獲得を目的に、2つのサブテーマについて学びます。①多種多様な情報を解釈・活用するための処理技術や手法、②情報や情報機器を安全に利活用するために必要な知識を習得します。		
学生の皆さんへのメッセージ	コロナ禍を経験して、この社会では、どんな場面でも「情報や情報技術を活用していくスキル」が不可欠になっています。皆さんが卒業後の社会生活においても活躍していけるよう、このモジュールで、さまざまな知識や技能を身につけてください。	説明動画	

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
情報の活用	丹羽 量久	整った報告書（レポート）の効率的な作成に欠かせないデジタル文書作成技法およびデータ分析に応用できる中級レベルの表計算技法とその可視化技法について演習を交えながら学ぶ。	文書作成技法 表計算技法
情報社会の安全と安心	上繁 義史	情報化社会における、セキュリティ維持について、基本となる知識や考え方を学ぶ。セキュリティ維持に必要な情報技術、ルール、運用の基礎について講義を行う。また、理解を深めるために、講義内容に関連した発展的な議題についてグループディスカッションを行う。	情報セキュリティ セキュリティ技術 リスク管理 個人情報保護

教養モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点	
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A	B
情報の活用	◎	○	◎	◎	○				○			○
情報社会の安全と安心	◎	○	◎	◎	◎	◎			○		○	○
◎（特に重視）の数	2	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
○（重視）の数	0	2	0	0	1	0	0	0	2	0	1	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目